

中日両語の程度性と量性の表わし方について

時 衛国
SHI WEIGUO

外国語教育講座

要旨：中日両語の程度副詞は量性の有無により、いずれも量性と制御性を持つものと持たないものに2大別できる。中国語の程度副詞は状態の程度性や量性を修飾する他に、さらに動作の数量・時間をも修飾することができる。量的語句と共起すれば、同一動作に対しても様々な量的修飾を行うことができる。ただ多量を表す程度副詞には制御性が付与されていないことから、体系内の不均衡性が見られる。これに対し、日本語の程度副詞はそのまま状態の程度性や動作の量性などを修飾しうるので、文法上他の量的語句と共起する必要性は持たないという一方、状態を時間的・量的修飾の対象とし得ず、同一動作に対しては、その数量か時間か、どちらか一方だけしか修飾しえないという文法上の制限がある。ただし、これから展開される動作に対しては、多量的にも少量的にも支配可能なので、量的体系の均衡性が保たれている。

キーワード：程度副詞、程度性、量性、制御性、対照研究

1. はじめに

中国語と日本語にはいずれも、動作・行為などの量や状態・性質・事物などの程度を表わす、いわゆる程度副詞を持っている。本論文は程度副詞を考察することによって、中日両語の程度性と量性の表わし方について、その共通点と相違点を究明しようとするものである。研究方法として、中日両語における代表的な程度副詞、しかも比較のペアとなりうる語を取り上げて、それらが形容詞・動詞修飾についてどのような文法的機能や性質などを持つのか比較対照し、その共通点と相違点及びそれぞれの特色を明らかにしていくことにする。

比較対照する前に、まずこれまでの先行研究を振り返ってみる必要がある。

中国語の程度副詞については、王力 1954・黄盛璋 1957・範繼淹・饒長溶 1964・馬真 1988・周小兵 1995・張桂賓 1995・徐晶凝 1998・時衛国 2001、2002 などがある。この中で、特に、王力 1954 と黄盛璋 1957 は程度副詞の分類を考える時に参考になるところが多い。ただこれらの研究は程度副詞の文法的性格についてのみ分析しており、量性の有無による分類については行われていない。

一方、日本語の程度副詞については、工藤浩 1983・沖久雄 1983、1998・森山卓郎 1985・渡辺実 1990・江口千香子 1994・林葉緒子 1997・佐野由紀子 1998・木下恭子 2001・仁田義雄 2002 などがあるが、程度副詞全体についての分類や程度副詞とモダリティ表現との関係及びその文法的性格などについての研究が多い。特に森山卓郎 1985 では程度副詞を純粹程度副詞と量的程度副詞に分けている。この分類は非常に重要であると考えられる。

中日両語の程度副詞に関する対照研究は一定の成果

を収め、いくつか注目すべき論文が発表されている。たとえば、章紀孝・水野義道 1983 は日本語の〈もっと〉と中国語の「更(もっと)」を取り上げており、大島潤子 1999 は日本語の〈比較的〉と中国語の「比较(比較的)」を考察していて、いずれも有益なアプローチを行っているが、ただし、これらの研究は個別の語についての考察がほとんどであり、程度副詞全般に関わるものではない。また、両語の程度性と量性に関する考察はなされてないようである。したがって、筆者は程度副詞を体系的に比較し、両語の程度性と量性の表わし方を究明する必要性を痛感している。

2. 程度副詞の分類

中日両語の程度副詞について考察すると、まず程度性だけを持つのか、それとも程度性と量性をともに持っているのかという基準により、量性を持つものと持たないものとに分類することができる。

中国語では動作・行為に含まれた量性を動作量、状態や事柄に含まれた量性を状態量という。それで量性を持つ程度副詞は、さらに〈①動作量を修飾するもの〉と〈②状態量を修飾するもの〉に細分することができる。①は動作量のほか、状態量をも修飾できるが、②は状態量しか修飾できず、動作量を修飾対象外としている。

I. 量性を持つ程度副詞：(中国語／日本語)

中国語：

①很(hěn／とても) 稍微(shāowēi／少し) 略微(luèwēi／少々) 多少(duōshǎo／多少) 稍稍(shāoshāo／ちよっぴり) 略略(luèluè／少々) (微微wēiwēi／少々) 稍(shāo／ちっと) 略(luè／いささか) 再(zài／もっと)

②太(tài／あまりに) 比较(bǐjiào／比較的) 较

(jiào／わりと) 更(gèng／もっと) 还(hái／さらに)

日本語：

あまり(に／にも) 十分(に) 相当(に) かなり
もっと さらに 大いに 少し 少々 ちょっと^(注1)

II. 量性を持たない程度副詞：

中国語：

极(jí／極めて) 非常(fēicháng／非常に) 十分(shífēn／十分) 相当(xiāngdāng／相当) 最(zuì／最も) 顶(dǐng／一番) 有点(yǒudiǎn／ちょっと)

日本語：

極めて 非常に 大変 なかなか とても 比較的
わりあい 最も 一番^(注2)

- (1) 稍微吃了一些水果。(果物を少し食べた)^(注3)
- (2) 果物を少し食べた。
- (3) 今天非常冷。(今日は非常に寒い)
- (4) 今日は非常に寒い。

なお、中日両語の量性を持つ程度副詞については、動作・行為の展開を支配しうるかどうかににより、さらに制御性を持つものと持たないものの二つに大別できる。制御性を持つ程度副詞は、発話者の意図を反映する命令・願望などの表現と共起し、動作・行為の展開を主観的に支配できるのに対し、制御性を持たない程度副詞は、命令や願望などの表現と共起できず、ただ動作・行為を客観的に描写するだけで、それを意識的に支配できない。その該当語を挙げると、次のとおりである。

A 制御性を持つ程度副詞：

中国語：稍微(shāowēi／少し) 略微(luèwēi／少々)
多少(duōshǎo／多少) 稍稍(shāoshāo／ちよっぴり) 再(zài／もっと)

日本語：十分(に) 大いに もっと さらに 少し
少々 ちよっと

B 制御性を持たない程度副詞：

中国語：很(hěn／とても) 略略(luèluè／少々)
(微微(wēiwēi／少々) 略(luè／いささか)
还(hái／さらに)

日本語：相当(に) かなり あまり(に／にも) 多少

- (5) {稍微／略微／稍} 加把劲！(少し頑張れ)
- (6) *{很／略略／微微} 加把劲！(「少し頑張れ」の意)
- (7) {もっと／すこし／ちよっと} 頑張れ！

(8) *{相当／かなり／あまり} 頑張れ！

要するに、量性を持つ程度副詞は、動作・行為などを表わす動詞を主な修飾の対象とし、その動作・行為に内包された時間・数量などを言い表わす働きを持っており、量性を持たない程度副詞は、状態・事柄などを表わす動詞や形容詞(形容動詞)などを主に修飾し、状態・事柄に内包された程度性や量性などを言い表わす働きを持っている。

本論文では「今天比昨天更冷／今日は昨日よりもっと寒い」のように他者との比較を視野に入れ、二つあるいはそれ以上の事象の程度性を修飾する程度副詞を特定の比較を表すものといい、「今天非常冷／今日は非常に寒い」のように、ただ一つの事象の程度性を修飾し、他者との比較を視野に入れない程度副詞を非特定の比較を表すものという(以下同じ)。

3. 分析

3.1. 状態・事柄への捉え方

状態・性質や事柄などに含まれた程度性を修飾するのが、程度副詞の本質的な役目である。従って、量性を持つ程度副詞も、量性を持たない程度副詞もいずれも相対的な状態性・程度性を修飾限定する機能を持っている。例えば、

(9) 这个房间有点暗。他说。(「この部屋はちょっと暗いよ」と彼はいう)(赵长天「书生」『中篇小说选刊』1992年第三期 P17)

(10) 「しかしだよ、めぐみ。お前はね、すこしおかしいよ」(船山馨著『放浪家族』P177 集英社文庫 1979)

のように、「有点(yǒudiǎn／ちょっと)」「极(jí／極めて)」「很(hěn／とても)」「稍微(shāowēi／少し)」「更(gèng／もっと)」などと「少し」「最も」「とても」「じゅうぶん」「もっと」などは、いずれも「暗(àn／暗い)」「高兴(gāoxìng)／嬉しい」などのような形容詞(形容動詞)や、「担心(dānxīn)／心配する」「放心(fàngxīn)／安心する」などのような状態を表わす動詞を修飾できるので、この点では、中国語と日本語は完全に共通している。

ところが、日本語では、「進化する」「貢献する」「評価する」「主張する」「支援する」「期待する」などの動詞はいずれも「最も」「一番」によっては修飾されるが、中国語では、これらに対応すると見られる「进化(jìnhuà／進化する)」「贡献(gòngxiàn／貢献する)」「评价(píngjià／評価する)」「主张(zhǔzhāng／主張する)」「支援(zhīyuán／支援する)」「期待(qīdài／期待する)」は「最(zuì／最も)」「顶(dǐng／一番)」によっては修飾され得ない。

- (11) 「最も進化した」といわれる 400 型には、着陸時の困難な操作さえ完全自動でこなす能力がある。(『朝日新聞』1996 年 6 月 17 日朝刊)
- (12) * 猴子是一种最进化的动物。(「猿は最も進化した動物である」の意)

一方、中国語の「同意 (tóngyì / 同意する)」「賛成 (zànchéng / 賛成する)」「希望 (xīwàng / 希望する)」は「很 (hěn / とても)」によって修飾されるのに対し、日本語の「同意する」「賛成する」「期待する」は〈とても〉によって修飾されにくい。

- (13) 老田貌似中庸，其实很赞成老周的意见。(田さんはどっちつかずの消極的な態度を見せているのだが、実際には周さんの意見に大賛成だ)(程家政「今天去栽树」《山西文学》1992 年第 2 期)
- (14) ?? 田村さんはどっちつかずの消極的な態度を見せているのだが、実際には鈴木さんの意見にとっても賛成している。

また、

- (15) * 试验了一下，结果都 {太 / 极 / 很} 一样。(「実験してみたが、結果はどれも同じだ」の意)
- (16) 実験してみたが、結果はどれも {あまりに / ? 極めて / ?? とても ?? 十分 / ?? 相当} 同じだ。

のように、絶対的な程度性を含む形容詞(形容動詞)や動詞などを修飾しにくいという点においても、ほぼ同じである。両語は被修飾語に対し相対的な程度性を持つことを前提にし、状態の程度修飾にあたって、共起条件として修飾語と被修飾語の間に共通した文法属性が求められるという点では、全く一致している。ただ単なる状態の程度だけを修飾するのか、それともその状態に含まれた量性をも修飾するのかという点で、大きく異なっていると考えられる。

- (17) “我跟她探过口风，她很赞成，说了我一顿不是，还说何必怪罪哪一个人？～”(僕は彼女の言い方を咎めたことがあるが、彼女は大反対で、僕の考えには納得しなかった。さらにどうして人を咎めたりする必要があるのと言う)(《中国当代作家选集丛书・叶文玲》P396 人民文学出版社 1997)
- (18) * 僕は彼の言い方を咎めたことがあるが、彼女はとても賛成しなかった。

中国語では、状態に含まれた量性(状態量)を限定しう副詞は、非特定の比較を表わすのにも、特定の比較を表わすのにも用いられ、普遍的機能として認められる。このタイプの語を挙げると、非特定の比較を

表わす「太 (tài / あまりに)」「很 (hěn / とても)」と特定の比較を表わす「比较 (bǐjiào / 比較的)」「更 (gèng / もっと)」「还 (hái / さらに)」と、特定の比較と非特定の比較を共に表わす「稍微 (shāowēi / 少し)」「略微 (luèwēi / 少々)」「多少 (duōshǎo / 多少)」などがそれである。しかし、これらは相似した文法的構造は取っているものの、機能的にはそれぞれ異なった役割を果たしている。「很 (hěn / とても)」と「稍微 (shāowēi / 少し)」「略微 (luèwēi / 少々)」「多少 (duōshǎo / 多少)」などは、数量・時間などを表わす語句と共起して、「程度副詞 + 被修飾語 + 量的語句」という構造を作ることによってその状態の持続した時間や数量などを言い表わしうる。一方、「太 (tài / あまりに)」「比较 (bǐjiào / 比較的)」「更 (gèng / もっと)」「还 (hái / さらに)」などは程度の相対性を表わすことに重きを置く(注 4)。

- (19) 当时他 {很 / 稍微 / 略微 / 多少} 艰苦了一段时间。(当時、彼には困難な状態がかなりの間(暫くの間)続いていた)
- (20) 苦苦思索了好几天，决定最后一次试试妻子，看还有没有“和平解决”的希望。若实在没有，那就让她恨我好了，也许那样更好些！(数日間いろいろ考えた末、平和的に解決する望みがあるのかどうか、最後に妻に問いただすことに決めていた。もしそうでなければ、妻に恨みを抱かせておくしか方法がない。そういうふうにしたほうがよりいいのかも知れない)(邓友梅著《中国当代作家选集丛书・邓友梅》P22 人民文学出版社 1996.5)
- (21) “是不是太晚了一点？”他看了看表，“记者们走了，她还要休息一下。他是个残废。”(ちょっと遅れたのかな。彼は腕時計を見ると、「記者たちはもう帰ってしまった。彼女はもう少し休憩したほうがいい。彼女は障害者なんだ」と言った)(从维熙著《中国当代作家选集丛书・从维熙》P231 人民文学出版社 1998.3)
- (22) “所以，”单自雪说，“我建议你以后唱歌学会使用小嗓，这样无论对你还是对别人都比较公平一点。”(「だから……」と単自雪は言い、「これから裏声で歌えるようにと提案するよ。こういうふうにしてこそ、あなたにも他人にも公平というもんだ」)(项小米「二的」《人民文学》2005 年第 3 期 P21)

これらに対し、「极 (jí / 極めて)」「非常 (fēicháng / 非常に)」「十分 (shífēn / 十分)」「相当 (xiāngdāng / 相当)」などは、量的語句とは共起しない。

- (23) * 当时他 {极 / 非常 / 十分 / 相当} 艰苦了一段时间。(「当時彼には困難な状態がかなりの間

続いていた」の意)

「極(jí／極めて)」 「非常(fēicháng／非常に)」 「十分(shífēn／十分)」 「相当(xiāngdāng／相当)」 などは確定的な程度性を表わすのみに止まって、その原因は相対的な時間・量的概念を排除するからと考えられる。この点では、非特定の比較を表わす「太(tài／あまりに)」とも、また特定の比較を表わす副詞とも異なり、文法的には排他的性格が強い。「太(tài／あまりに)」は、基準を全く外れた程度評価にあたり、発話者の控え目さを表わすために量的語句との共起が許容される。このように、「太(tài／あまりに)」以外の非特定の比較を表わす程度副詞は量的概念と程度評価の相対性を言い表わすことができないという点では、特定の比較を表わす程度副詞と大きく違っている。

日本語では、特定の比較を表わす程度副詞も非特定の比較を表わす程度副詞も、時間的・量的語句と共起できないという点では共通している。例えば、

(24)* その時、{あまりに／極めて／とても／非常に／十分／相当} 幾らか苦しかった。

(25)* そういうふうにしたほうが {最も／一番／もっと／さらに／比較的／少し／少々／ちょっと} どのぐらいいいのだろうか。

における程度副詞は、いずれも〈幾らか〉〈どのぐらい〉などと同じセンテンスには共起することはできない。

この点では日本語は中国語と大いに異なり、全く時間的・量的語句を受け入れる余地がない。日本語では〈極めて〉〈非常に〉〈とても〉〈最も〉などは、程度性しか言い表わせず、状態の程度修飾をするのみである。一方、〈もっと〉〈さらに〉〈十分〉〈相当〉〈少し〉〈少々〉〈ちょっと〉〈多少〉などは、程度性のほかに量的概念についても言い表わすことが可能である。ただし、これらの量性を持つ程度副詞は、動作・行為などを表わす動詞などを修飾する時には、その量的側面のみが働き、その程度的側面は働かないが、逆に、形容詞・形容動詞を修飾する時には、その程度的側面のみが働き、その量的側面は働かない。さらに、この関わり方が画一化しているという点では同じである。

このように状態の程度性をいずれも修飾できるという点では、中国語と日本語は同じだが、しかし、状態に含まれた量についても修飾することができるという点では、中国語は日本語と全く違っている。中国語では程度性と量性の融合が許容され、二つの概念の共立は抵抗せずにできるので、程度表現には選択肢が豊かに用意されているのに対し、日本語では、程度性と量性との共立は全く考えられず、状態性には程度性しか込められていないので、量性の添加は不可能に近い。

3.2. 動作・行為への捉え方

中国語と日本語の程度副詞は、動作・行為などを修飾できる時には大きな違いが見られる。

中国語では、「很(hěn／とても)」と「稍微(shāowēi／少し)」 「略微(luèwēi／少々)」 「多少(duōshǎo／多少)」 は、それぞれ量的語句と共起すれば、動作・行為などの時間の長短や数量の多寡などを言い表わすことができる。この点では、四語は量的語句と共起し、それ自体に量的概念を有しているけれども、動作・行為などを修飾できない「太(tài／あまりに)」 「更(gèng／もっと)」 「还(hái／さらに)」 「比较(bǐjiào／比較的)」 「有点(yǒudiǎn／少し)」 などとは一線を画している。また、完全に動作・行為などの量的概念と関わない「極(jí／極めて)」 「非常(fēicháng／非常に)」 「十分(shífēn／十分)」 「相当(xiāngdāng／相当)」 「最(zuì／最も)」 「頂(dǐng／一番)」 などとも異なっている。

(26) {很／稍微／略微／多少} 吃了一些水果。(果物を〈沢山／少し〉食べた) = (1)

(27)* {太／更／还／比较／有点／極／非常／十分／相当／最／頂} 吃了一些水果。(「果物を沢山食べた」の意)

だが、動作・行為などを修飾できるからといって、ただそれを状態化した上で客観的に描写するだけに止まり、その動作・行為を発話者自身が意志的にコントロールできず、また聞き手に対してもその動作・行為の実現を働きかけられないという点においては、「很(hěn／とても)」は「稍微(shāowēi／少し)」 「略微(luèwēi／少々)」 「多少(duōshǎo／多少)」 などと異なっている。「很(hěn／とても)」は「稍微(shāowēi／少し)」 「略微(luèwēi／少々)」 「多少(duōshǎo／多少)」 などと同じような量的語句を取れるものの、しかし、動作・行為のその状態化した側面しか限定できず、変化の最中にある動きはもとより、これから展開される動きをも支配不可能にする。つまり、静止した状態のみを対象とし、運動している状態は視野に入れないということになる。

今後のある行動の展開を導き出す副詞として、「再(zài／もっと)」がある。「再(zài／もっと)」は、繰り返しと頻度を表わすものとして、発話者の意図によって展開されたり進行されていたりする動作・行為などを支配する機能を持つ。まったく発話者の理想値に達していない時には、話し手自身や聞き手或いは第三者に対し、その動き・行いを大いに反復するように働きかけるが、発話者の理想値に迫ってきている時には、到達目標を示唆しながら、量的語句との共起によって、その動き・行いの継続を訴える。

また、理想値を設けるにあたって広い視界があり、その動作・行為を制御するのに多量でも少量でも設

定可能だが、ただそれをかなえさせたり続けさせたりする際には、反復という一つ的手段に過ぎない。つまり、反復することによってその動作・行為を推し進めるのである。この意味から、「再(zài／もっと)」は、主に進行の最中にある動きを捉え、動く直前の様子や全く動いていない様子を対象としないと考えることができる。ただ、動作の継続を制御しようという点では、単に動作が実現された後の様子を描写する「很(hěn／とても)」とは異なっている。

「稍微(shāowēi／少し)」「略微(luèwēi／少々)」「多少(duōshǎo／多少)」などは、動作・行為が実現された後の状態を修飾するという点では「很(hěn／とても)」と同じである。ただし、少量を言い表わすだけにとどめ、その機能は多量を表わすまでには拡張されることはない。この点では「很(hěn／とても)」と異なっている。一方、これらの語は実現される動作・行為などを話者の意図により少な目に統括し、今後の展開をみずから推し進めたり、或いは他人に勧誘したりする時にも機能する。この場合はその行動を控え目に最小限に食い止めることに特色がある。しかし、既に展開中の動作・行為などを限定できず、またそれを繰り返す形で誘導することができない。この点では、「再(zài／もっと)」と区別しなければならない。

「稍微(shāowēi／少し)」などは、静かな様子への描写と動的現象への制御が共にできるという点では、「很(hěn／とても)」や「再(zài／もっと)」などとは違っている。

ところが、既に展開中・進行中の動作・行為などを量的に修飾する場合、「稍微(shāowēi／少し)」「略微(luèwēi／少々)」「多少(duōshǎo／多少)」などは、「再(zài／もっと)」と同じ文法構造に共起することができる。例えば、

- (28) 稍微再吃点儿！(もう少し食べてください)
(29) 再稍微吃点儿！(もう少し食べてください)

のように少量を提示することも反復性を強調することもできる。(28)は少量の実現を目指して、これまで続けられてきた飲食行為をさらに継続させるということに力点が置かれているが、(29)はその飲食行為を続けるようにするため、「食べる」という動作を反復すると同時に、その少量を示唆する。このように、相関の副詞は共起することにより、おのおのの機能を果たし、展開中・進行中の動きをも事細かに把握できる。これが中国語の動作を修飾する形である。

日本語では、動作・行為などを修飾する時には、量性を持つ程度副詞が用いられ、量性を持たない程度副詞は用いられない。そして、〈もっと〉〈さらに〉〈少し〉〈少々〉〈ちょっと〉〈多少〉は、量性を持つ程度副詞として、実現された動作・行為などは言うまでもなく、進行中・継続中の動きや、これから行われる事

象についても修飾することができる。この点では、〈極めて〉〈非常に〉〈とても〉〈もっとも〉〈一番〉〈比較的〉などと対立している。

- (30) 果物を {十分／もっと／さらに／少々／少し／ちょっと／多少} 食べた。
(31) *果物を {極めて／非常に／とても／大変／最も／一番} 食べた。

一方、〈あまりに〉〈相当〉〈多少〉などは、同じく量性を持つ程度副詞ではあるが、動作・行為などを支配するのではなく、ただそれを客観的に描写し、その量の多寡を問題とするだけである。発話者は動作・行為などに含まれた量性を支配できないため、行動の展開などには使うことはできない^(注5)。そのため、動作・行為を意図的に行なう際には、発話者の主観を反映した多量と少量を表現するのに、〈あまりに〉〈相当〉〈多少〉などは用いられないのである^(注6)。

〈十分〉は予想通りに行われた動作・行為などの量性を表わすほかに、動作・行為の展開にも重点があり、充足した量性を示唆する語である。一方、〈もっと〉〈さらに〉は展開中・進行中の動作・行為に係り、話し手の理想値に達するため、これまで続けられてきている行動を今まで以上に推し進めたり更なる目標を目差してそれを継続したりすることを表現する。

- (32) 「——少し空けておこうか?」「大丈夫よ。だって、話を聞かれても困るんじゃないの?」(赤川次郎著『失われた少女』P185 角川書店1988)
(33) 「おい、いいからちょっと、座れよ」(曾野綾子著『天上の青』(下) P78 新潮文庫1996)
(34) それからしばらく、芸妓たちも交えて他愛のない話題に座が賑わったが、やがて河内は思い出したように「君たち、ちょっととちょっとはずしてくれ」と、芸妓たちを遠慮させた。(船山馨著『放浪家族』P437 集英社文庫1981)
(35) 「参道から外苑へ出て、もう帰ろうかって言ったら、あの人は僕の腕につかまって、ああ良い気持、もっと走らしてよ。銀座まで行きたいわと言うんだ。だから赤坂へ出て、新橋へ出て……」(石川達三著『僕らの失敗』P268 新潮文庫1973)
(36) 彼はいつものように串田と向き合って、酒を飲んでいるうちに、もし返済を要しないのが事実なら、もっと借りようではないかと、提案した。(立原正秋著『剣崎・白い罌粟』P226 新潮社1971)

〈十分〉は発話者の満足感を伴い、予測値の実現や予測値と実際値の合致を強調する時には、いつも多量を保有する表現であるのに対し、〈さらに〉は、満足

感を伴ってさらに高い理想値を目標に、量の増大継続を追求する表現である。一方、〈もっと〉の方は、不満を前提に理想値の実現を働き掛けるべく多量の投入継続を訴える表現である。この三語は多量を示すという点では共通しているが、しかし、動作・行為の行われた前後に働くのか、それとも展開・進行の最中に働いているのかという点では大いに違っている。

〈少し〉〈少々〉〈ちょっと〉などは、動作が行われる前の段階でも、その後の段階でも、それを修飾する機能を持っている。ただどの段階においても少量を念頭に置き、話し手の量感を最小限にコントロールする。しかし、同じ動作・行為に対し今後の継続や展開を望む時には、そのままでは機能することはない。そして〈もう少し〉〈もう少し々〉〈もう少しっと〉などという複合形式で、これまで行われてきたことを意識し、その上にさらに少量の増加継続を働きかける働きを示す。この場合は、理想値の実現直前を示唆し、その量の増加が少な目であることを強調する。このように程度副詞による表現方法は様々であり、制御性の有無によって行動の展開を支配する表現方法が違っている。そしてその量的概念は意図の有無が関係してくるのである。

日本語には〈十分〉〈もっと〉〈さらに〉などのように、多量と制御修飾を言い表わす副詞が多く、話し手の意志によってその行動を自由に支配することが可能である。また、そのまま一つ量の概念を表出し、動作・行為の段階性に依じてそれぞれその量のありさまを表わすことができる。この点では、中国語と全く違っている。

日本語の〈少し〉〈ちょっと〉〈十分〉〈もっと〉〈さらに〉〈おおいに〉などはそのまま動作・行為などを表わす動詞を修飾して、その動作量や動作の持続した時間量を言い表わすことができるが、ただ、同一動詞に対して動作量を言い表わすのか、それとも時間量を言い表わすのかは、その動詞の意味によって決められる。そのため、同じ動詞についてはその意味に含まれた量的概念を強調するだけになる。

(37) あそこで少し食べる。

では、〈少し〉は、「食べる」を修飾しているのだが、しかし、その動作自体の量或いは食べ物の量を表わすだけで、食べるという動作が持続した時間などを言い表わしているわけではない。

一方、中国語では、程度副詞は動作・行為などを表わす動詞を修飾する時には、「程度副詞＋動詞＋量的語句」という構造を取って、それ全体で動作・行為の時間量、或いは、それが及ぶ対象物の数・量などを限定することになる。いつも呼応する形で使われるため、構文上の束縛を受ける一方、同一動詞に対しては、場合によって、時間的にも数量的にも修飾しうる。

(38) 稍微吃了一些。(少し食べた)

(39) 稍微吃了一会儿。(少しの間食べた)

「稍微(shāowēi／少し)」などは、文法上共起語句を必要とするものの、共起語句が置き換えられることによって、同一動詞に対し、その数量的側面と時間的側面が共に限定できるようになる。

中国語の程度副詞は動作・行為などを修飾する時には、それなりの量的概念を必要とし、構文的には共起語句に依存するのだが、しかし、各種の量的語句を收容することにより、動作量と時間量をそれぞれ明確に表現することが可能である。これに対し、日本語の程度副詞はそのまま動作・行為を修飾し、構文上の制限はあまり受けない。しかし、動詞自体の意味に束縛されているため、量的概念の導入が不可能であり、同じ動作・行為を多角的に捉えることができないという性格を持っている。

4. まとめ

中国語の程度副詞は状態の程度性・量性及び動作の量性のいずれを修飾するが、多量を表わす程度副詞は動作・行為などを状態化したものとして描写するだけで、意識的にそれらを支配することができない。少量を表わす程度副詞は動作・行為を描写するほか、さらに意識的にその動作・行為を支配することも可能である。程度副詞それ自体には量性は含まれていないが、量的語句との共起によって程度性と量性との融合を実現した上ではじめて量的修飾の機能を果せるので、程度性と量性が融合できるというのが中国語の特色である。

日本語の程度副詞は状態の程度性と動作の量性は修飾できるものの、状態の量性は修飾の対象とすることはできない。しかし、動作の量性を修飾する時には多量を表わす程度副詞と少量を表わす程度副詞は、いずれもその動作・行為を意識的に支配できるので、量的表現上体系的に均衡性が保たれている。しかもそれ自体に量的概念が内包されているため、そのまま動作・行為を修飾できるし、文法上の独立性が確立されているが、他の量的語句との共起は全く考えられないと考えられる。

注

1. 森山 1985 では〈比較的〉〈わりあい〉〈なかなか〉〈ある程度〉をも量的程度副詞として分類しているが、本論文では〈比較的〉〈わりあい〉〈なかなか〉を量性を持たないものとする。一方、〈ある程度〉は程度を示す連語であり、典型的な程度副詞とは区別すべきである。
2. 森山 1985 における純粹程度副詞に相当。ただ、〈とても〉は該当語に挙げられていない。詳しくは同氏の論文を参照されたい。
3. 出典を示さぬものは作例である。日本語の作例については日本人話者のチェックを受けている。中国語の作例については、

筆者の内省による。以下同じ。

4. 中国語の程度副詞と量的語句との文法関係については時卫国 2001 が述べている。ここでは簡単に触れることに留めた。
5. この点に関しては先行研究ではあまり触れていない。量性を持つ程度副詞の内部の異同に関してはさらに観察する必要があるだろう。
6. これらの程度副詞は量的概念を表わしうるが、しかし、発話者の意図を反映できるような制御性を持たないから、量的概念と制御性を共に表わしうる程度副詞と区別されるべきであろう。この点に関しては従来の研究ではあまり述べられていない。この点を明らかにすることは量性を持つ程度副詞の内部の文法的性格や動作・行為の行われ方や発話者のモダリティなどを知る上で極めて重要である。

参考文献

中国語

- 北京大学中文系 1955・1957 級语言班編 1982《現代漢語虛詞例釋》商務印書館
- 范繼淹・饒長溶 1964「再談動詞結構前加程度修飾」《中國語文》第二期
- 侯學超 1998《現代漢語虛詞詞典》北京大學出版社
- 陸儉明・馬真 1985《現代漢語虛詞散論》北京大學出版社
- 呂叔湘主編 1984《現代漢語八百詞》商務印書館
- 時衛國 2001「程度副詞與量性成分的共現關係」『現代中國語研究』第 3 期朋友書店

日本語

- 江後千香子 1994「程度に関わる副詞に含まれる比較基準の意味分析—「わりと」「けっこう」を中心に—」『国語学研究』と資料 18 号早稲田大学
- 木下恭子 2001「比較の副詞「もっと」における主観性」『国語学』205 号
- 工藤浩 1983「程度副詞をめぐって」渡辺実編『副用語の研究』明治書院
- 小林可奈子 1992「二つの節を前提とする副詞の意味分析」『都大論究』29 号
- 佐野由紀子 1998「程度副詞と主体変化動詞との共起」『日本語科学』3 号国立国語研究所
- 時衛國 2001『中国語と日本語における程度副詞の対照研究』東京都立大学博士学位取得論文（未公刊）
- 時衛國 2002「中国語と日本語の程度表現の様相について」『愛知教育大学研究報告』52 輯
- 仁田義雄 2002『副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 林葉緒子 1997「程度副詞と命令のモダリティ」『日本語と日本文学』25 号 筑波大学国語国文学会
- 森山卓郎 1985「程度副詞と動詞句」『国文学会誌』20 号京都教育大学
- 渡辺実 1986「比較の副詞—「もっと」を中心に—」『学習院大学言語共同研究所紀要』8 号
- 渡辺実 1990「程度副詞の体系」『国文学論』21 号上智大学

付 記:本稿は国語学会(現日本語学会)2002 年度春季大会(2002 年 5 月 19 日於東京都立大学)での発表原稿に加筆修正をを行ったものである。

(平成 19 年 8 月 27 日受理)

